

「第13回 愛媛県勤労者定期観測調査」報告書 (2017年11月調査)

2018年3月27日

【はじめに】

一般社団法人愛媛県労働者福祉協議会では、愛媛県内勤労者の福祉を推進するための基礎資料を得ることを目的に、県内勤労者を対象にした景況調査を実施しています。当報告書では、2017年11月に実施しました「第13回調査」の結果を報告します。調査にご協力いただきました加盟団体・事業所、ご回答いただきました方々にお礼申しあげます。

【調査概要】

- ① 調査名称：愛媛県勤労者定期観測調査（愛媛県勤労者短観）
- ② 調査対象：一般社団法人愛媛県労働者福祉協議会に登録する108団体・事業所の勤労者
- ③ 調査項目：勤労者の景況感、仕事の現状、暮らし向き等
- ④ 調査実施期間：年2回5月・11月、第13回調査2017年11月15日～12月15日
- ⑤ 回答数：第13回調査登録者数：437名、回答者数：317名、有効回答数：312
- ⑥ 調査方法：質問票によるアンケート調査（郵送調査法）

【主な調査結果概要・総括】

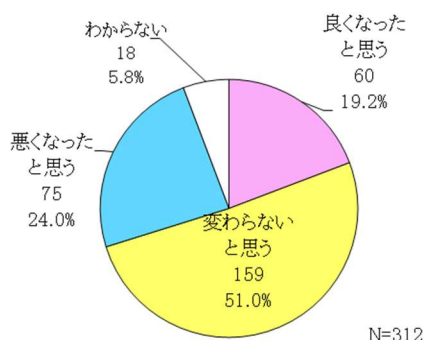
1. **業況** 前々回調査（2016年11月）、前回調査（2017年5月）に引き続いて、愛媛県内勤労者から見た県内の経営状況 DI は上昇し、調査開始以来、最も高い値になった。業種別で見ると、製造業の DI は引き続き改善しているものの、非製造業では悪化に転じている。（問1）
2. **賃金収入** 1年前と比べた賃金収入は、前回調査と比較して「増えた」の割合が減少した。その結果、賃金収入 DI は減少し、経営状況 DI とは異なる動きとなった。業種別では、製造業の DI が横ばいであったに対し、非製造業の DI の下落幅が大きかった。（問4）
3. **世帯全体の支出・資産の内訳** 世帯の支出については、消費支出、非消費支出ともに「増えた」の割合が多かった。世帯の資産を見ると、預貯金が「減った」とするものが最も多く、また保険契約額については、他の資産と比べて「増えた」とするものが多かった。（問9）
4. **総括** 今回調査時（2017年11月）、県内勤労者から見た愛媛県内の業況は上向きであった。また、しかし、賃金収入 DI は、製造業では横ばいであるのに対して非製造業では低下が見られ、この点では景気の波及は腰折れ的であった。他方、全体として、世帯収支 DI は改善し、勤労者の暮らし向き、生活の満足感は上向きに推移している。また、勤め先の仕事の満足感についても改善が見られた。賃金収入 DI の横ばい状況、特に非製造業では腰折れに注視しつつ、勤労者の立場から県内の景気動向を捉えていくことにしたい。

〔調査結果〕

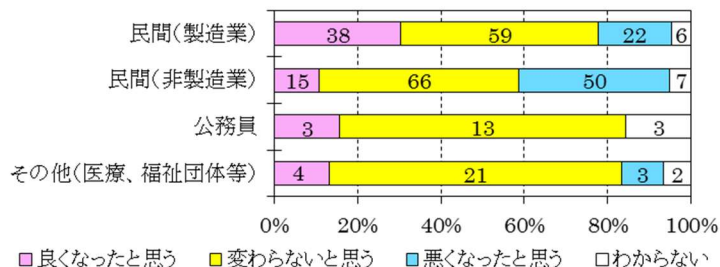
1. 勤め先の経営状況について

「勤め先の経営状況」については、前々回調査から今回調査まで「悪くなったと思う」の割合が減少し、「変わらないと思う」の割合が増加している。その結果、全業種で見た経営状況DIは上昇したものの（4.3ポイント上昇）、業種別に見ると製造業の大幅上昇（9.5ポイント上昇）に対して、非製造業の腰折れ状況（8.6ポイント低下）が見られる。

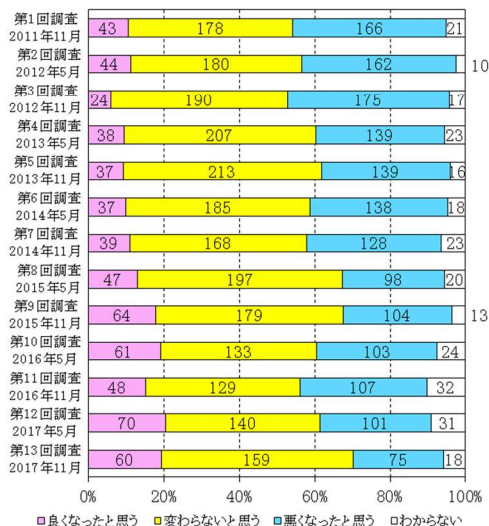
問1 勤め先の現在の経営状況
（1年前と比べて）



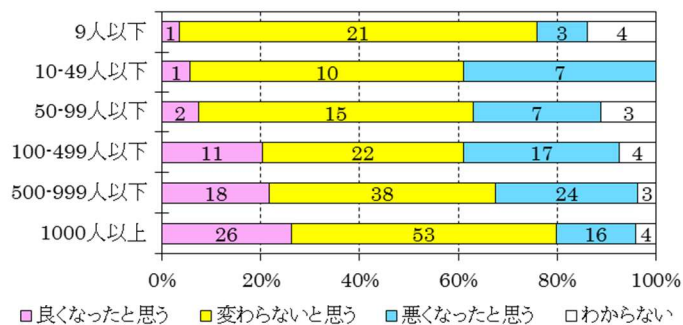
業種別にみた勤め先の経営状況（1年前と比べて）



問1 勤め先の現在の経営状況（1年前と比べて）

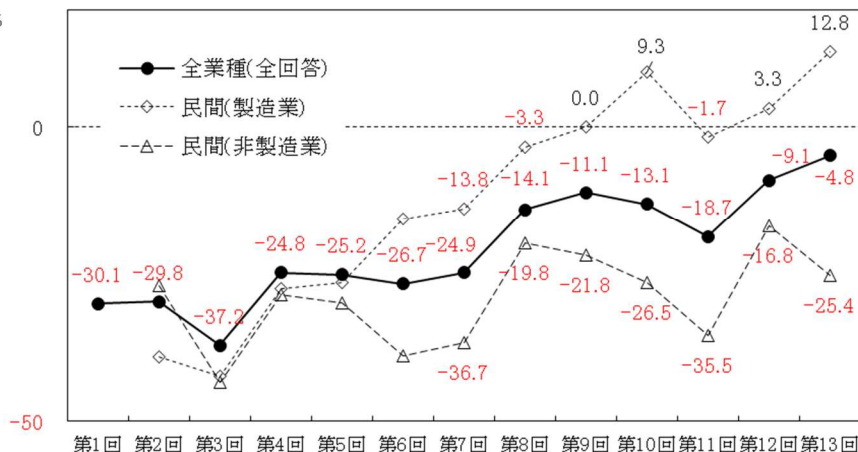


従業員数別にみた勤め先の経営状況（1年前と比べて）



経営状況DI

「良くなったと思う(%)」-「悪くなったと思う(%)」

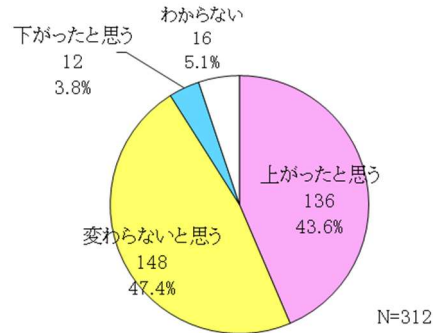


(注)全業種は、民間(製造業)、民間(非製造業)、公務員、その他(医療、福祉団体等)からなる。

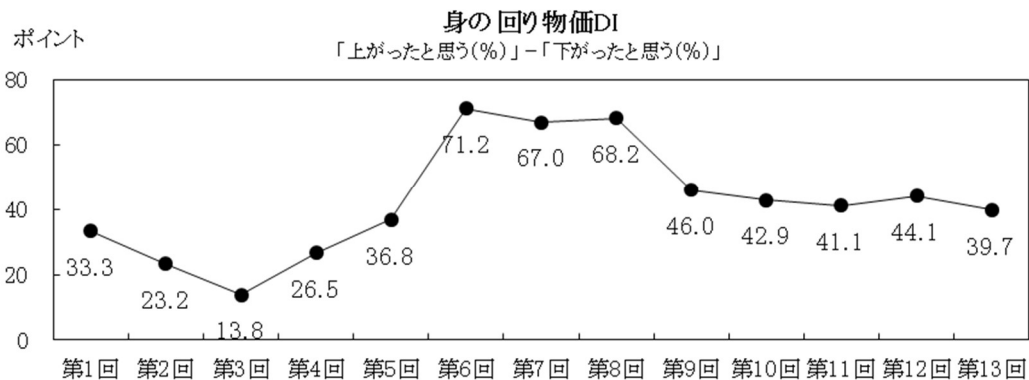
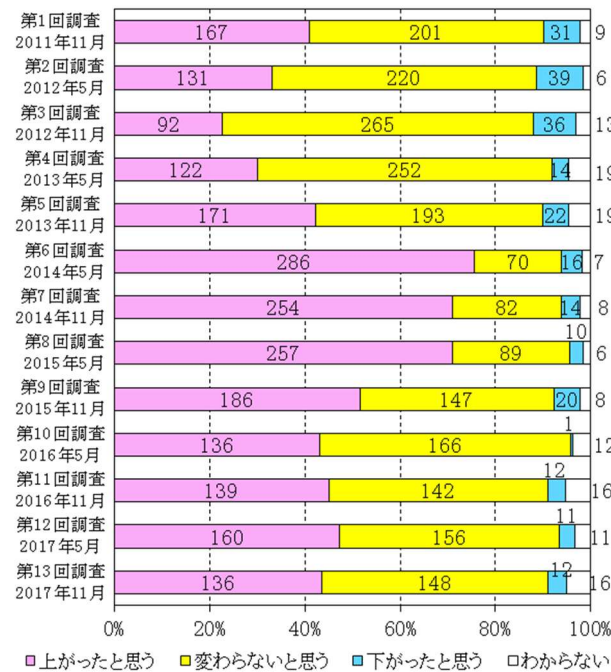
2. 物価について

1年前と比べた「身の回りの物価」については、前回調査と比較して「上がったと思う」の割合がやや減少し、身の回り物価DIは僅かに減少した(4.4ポイント低下)。

問2 日常生活に関連した商品やサービスの価格
(1年前と比べて)



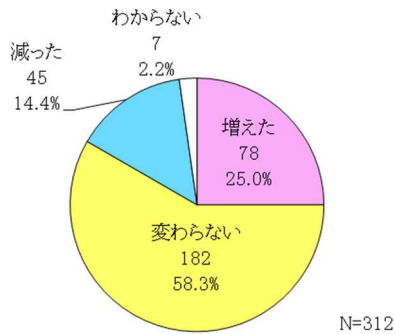
問2 日常生活に関連した商品やサービスの価格(1年前と比べて)



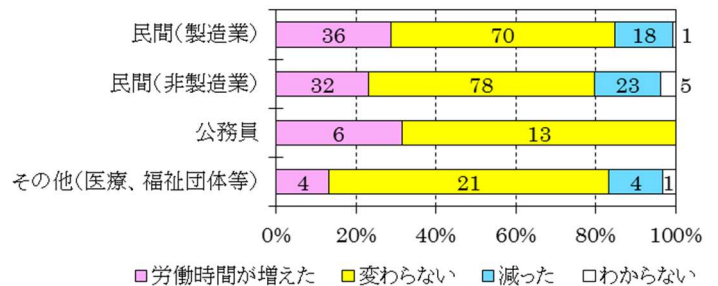
3. 実労働時間

最近の実労働時間については、前回調査と比較して「減った」の割合が若干減少した。その結果、労働時間DIはほぼ横ばいであった。業種別で見た場合、非製造業での労働時間DIが上昇する（5.9ポイント上昇）一方で、製造業では下落（4.3ポイント下落）するという違いが生じた。

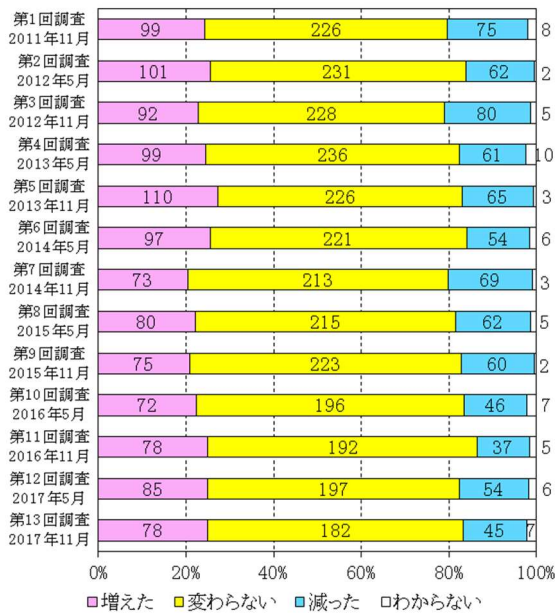
問3 最近の実労働時間（残業・休日出勤を含む）
（1年前と比べて）



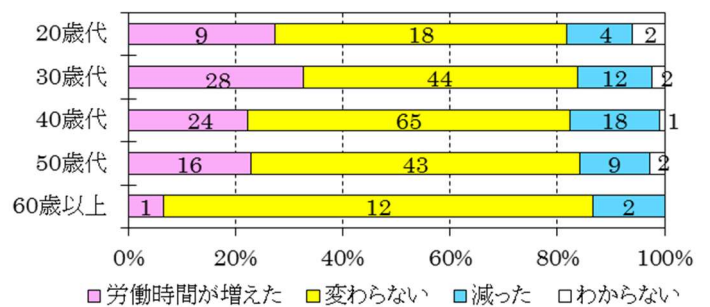
業種別にみた労働時間の変化（1年前と比べて）



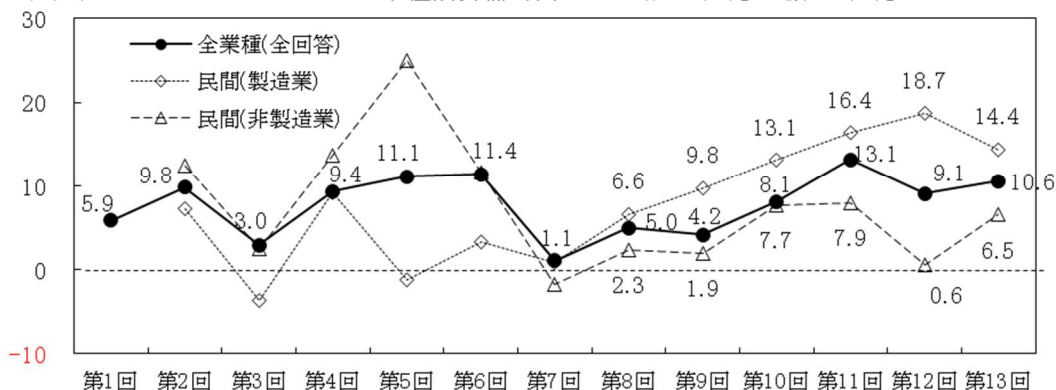
問3 最近の実労働時間
（全業種、残業・休日出勤を含む、1年前と比べて）



年齢別にみた労働時間の変化（1年前と比べて）



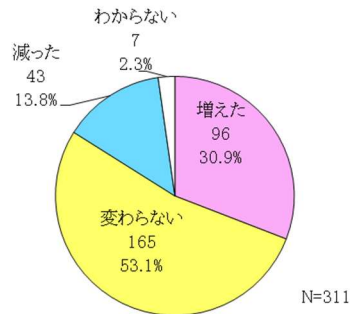
ポイント 業種別労働時間DI 「増えた(%)」-「減った(%)」



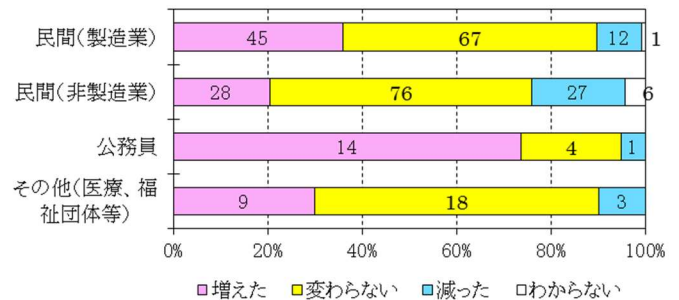
4. 賃金収入

1年前と比べた賃金収入は、前回調査と比較して「増えた」の割合が低下し、「減った」の割合が若干増加した。前回調査と同様に、業種別で公務員が、年齢別では若い層ほど「増えた」とする割合が高かった。全体で見た賃金収入DIは大幅に下落し（7.0ポイント上昇）、腰折れ状況が見られた。業種別では製造業のDIは横ばいであるものの、非製造業のDIの下落が大きかった（14.5ポイント上昇）。

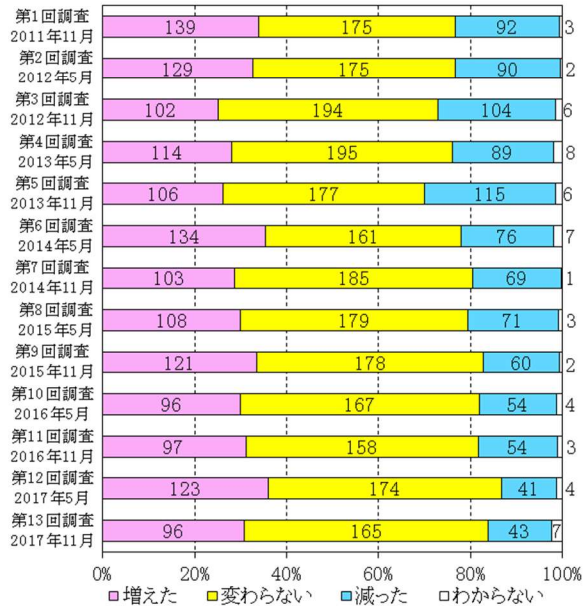
問4 あなたの賃金収入(1年前と比べて)



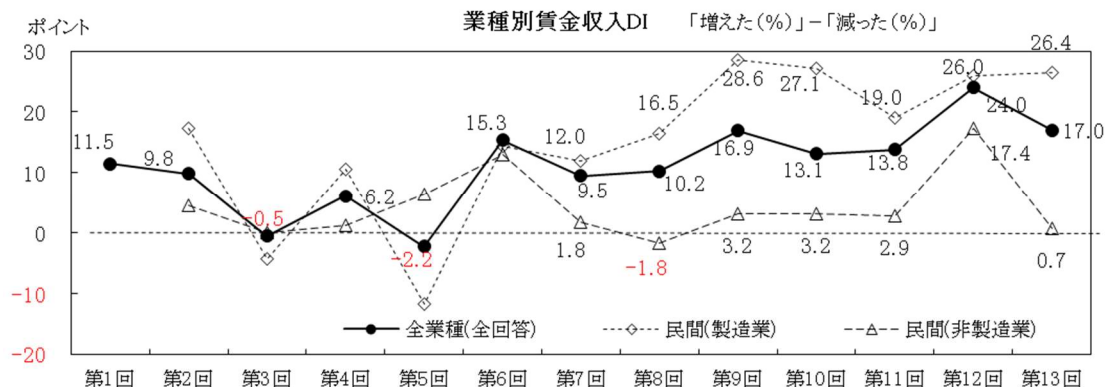
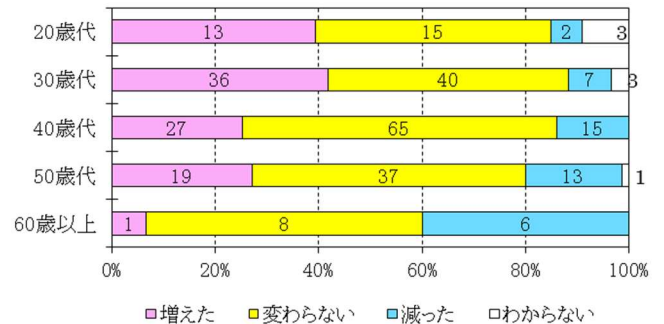
業種別にみた賃金収入の変化(1年前と比べて)



問4 あなたの賃金収入(1年前と比べて)

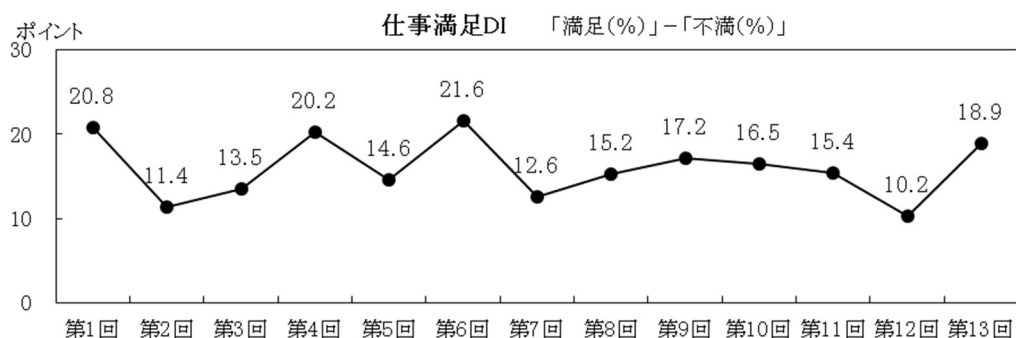
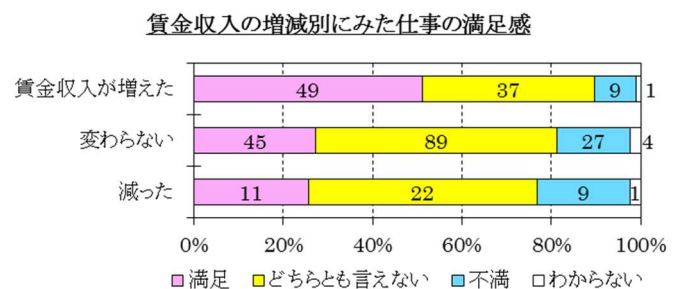
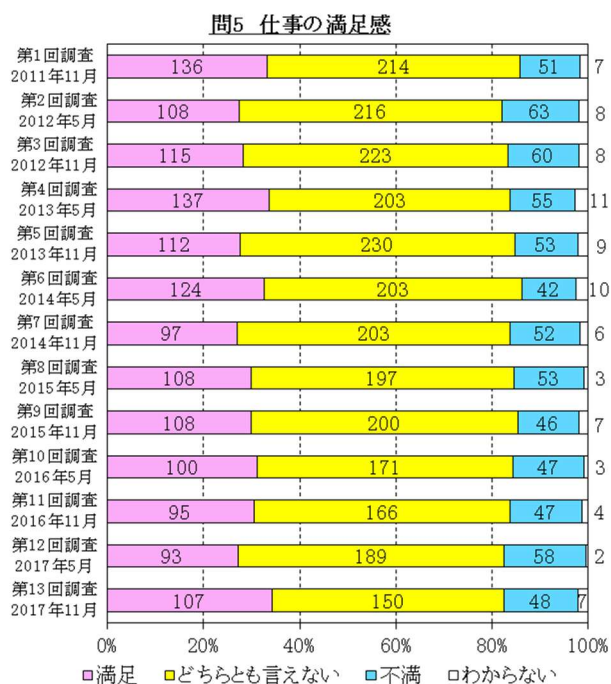
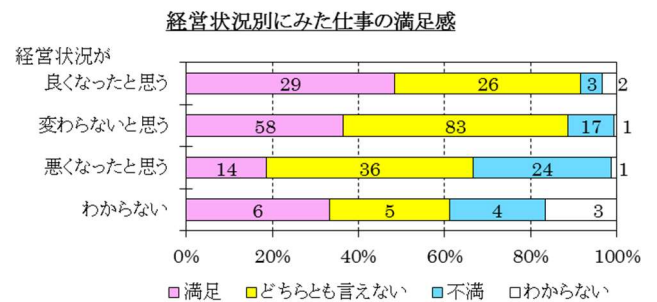
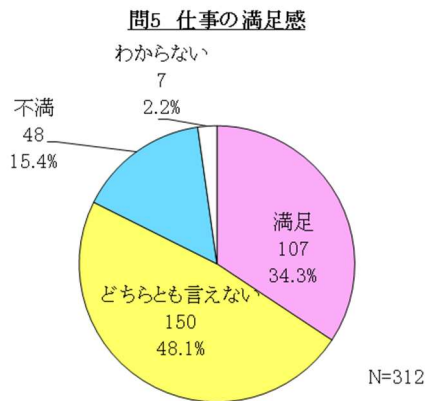


年齢別にみた賃金収入の変化(1年前と比べて)



5. 勤め先の仕事の満足感

勤め先の仕事の満足感について、前回調査と比較して「満足」の割合が増加し、「不満」が減少した。その結果、仕事満足DIは大幅に上昇した（8.7ポイント上昇）。勤め先の「経営状況」「賃金収入の増減」との間に関連性が見られた。

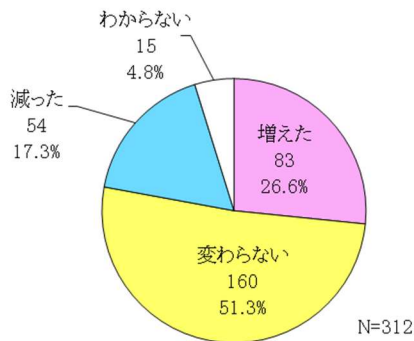


〈暮らし向きについて〉

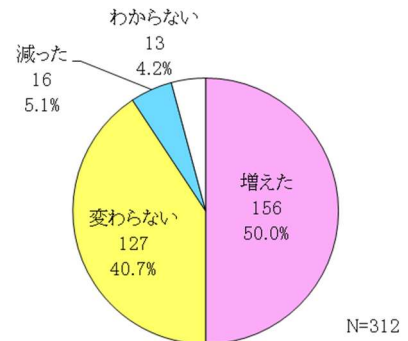
6. 世帯全体の収入、支出（問6、問7の結果）

世帯全体の収入は、前回調査と比較して「増えた」の割合が減少した。その結果、世帯収入DIは若干低下した（1.6ポイント低下）。世帯全体の支出は、前回調査と比較して、「増えた」の割合が若干低下した。その結果、前々回、前回と改善が見られていた世帯収入DIは僅かに低下した（2.7ポイント低下）。長期的に見て、世帯収入DIが横ばいで推移しているのに対して、世帯支出DIは改善傾向が見られる。

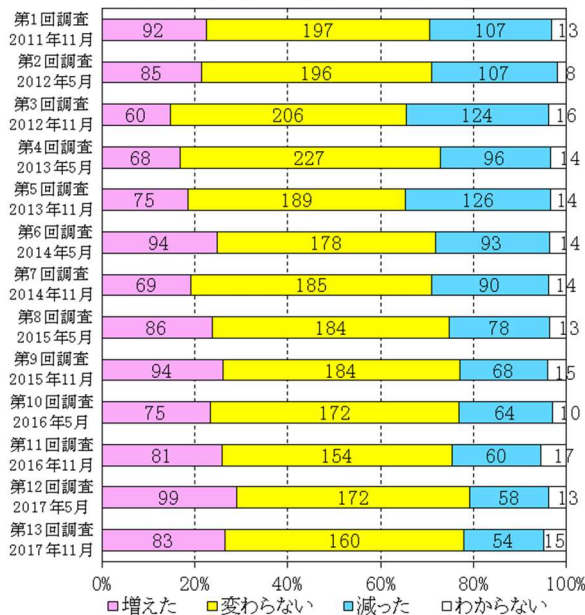
問6 世帯全体の収入(1年前と比べて)



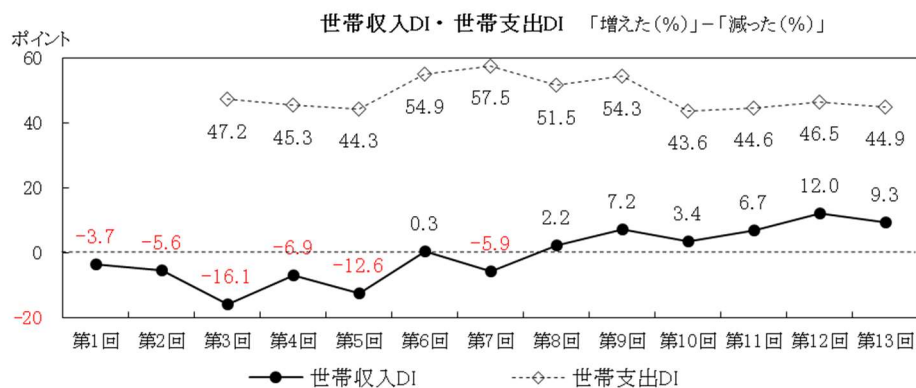
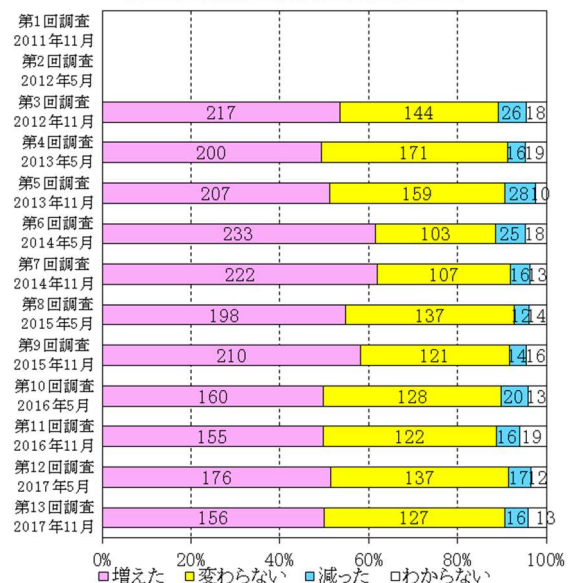
問7 世帯全体の支出(1年前と比べて)



問6 世帯全体の収入(1年前と比べて)



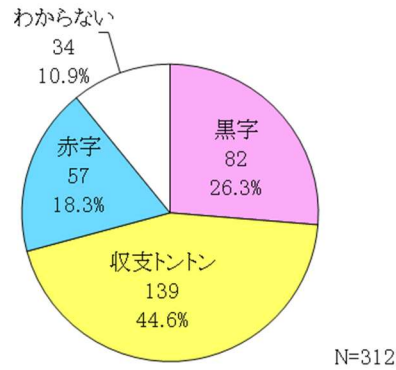
問7 世帯全体の支出(1年前と比べて)



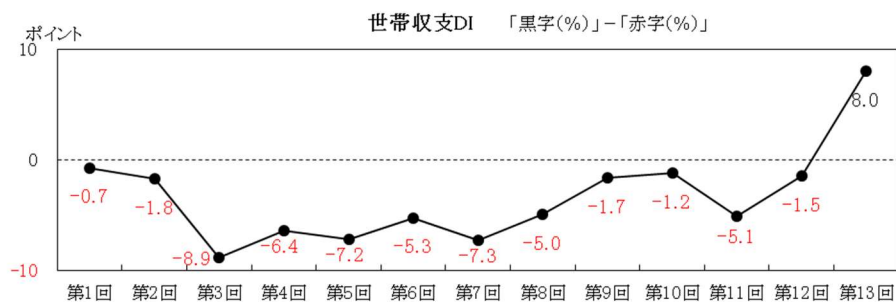
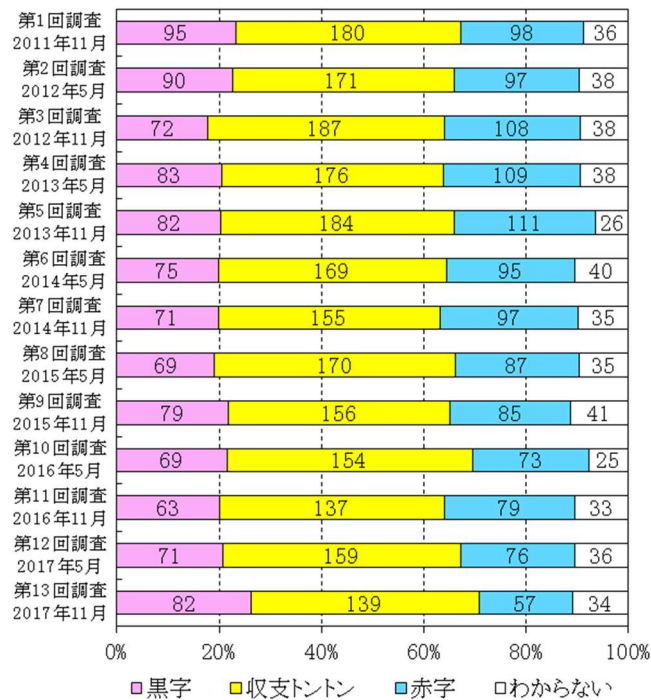
7. 世帯全体の収支

世帯全体の収支は、前回調査と比較して「黒字」の割合が増加し、「赤字」の割合が減少した。その結果、世帯収支DIは改善した(9.5ポイント上昇)。

問8 1年間の世帯全体の収支



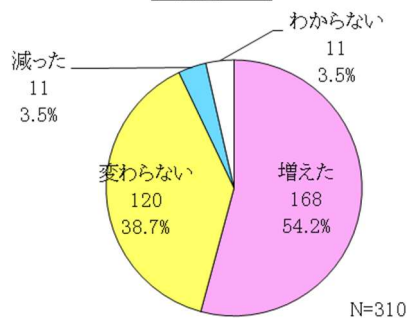
問8 1年間の世帯全体の収支



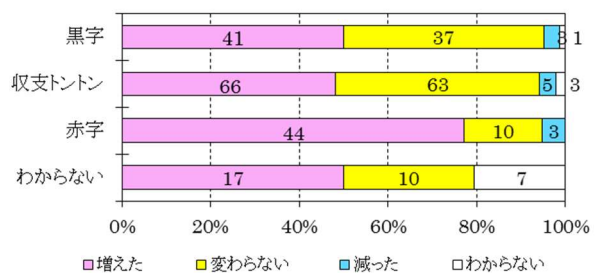
8. 世帯全体の支出・資産の内訳

世帯全体の支出については、「消費支出」が「増えた」と回答したものが半数以上いた（54.2%）。資産については、「預貯金残額」が「減った」と回答したものが3分の1（34.8%）いた。他方、「保険契約額（医療、学資、個人年金等）」が「増えた」と回答したものは4分の1（24.0%）いた。「保険契約額」を増やしたものの6割（67%）が30代、40代であった。

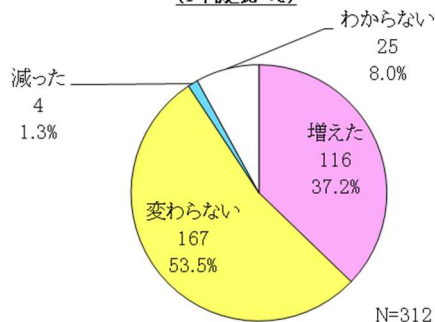
問9① 消費支出(食費、被服、交通・通信・娯楽費等)の増減
(1年前と比べて)



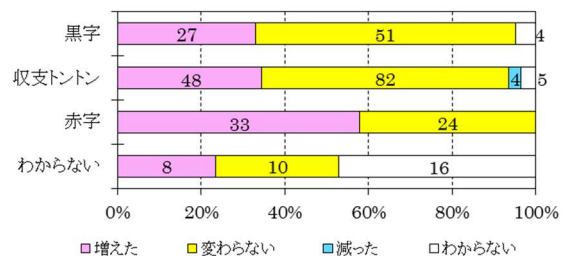
世帯収支別にみた消費支出の増減



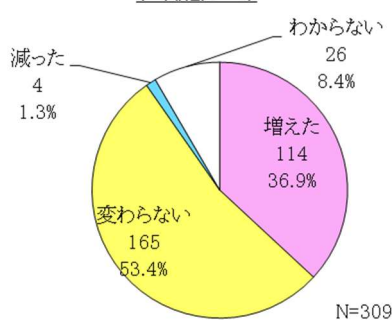
問9② 非消費支出(所得税、住民税、固定資産税等)の増減
(1年前と比べて)



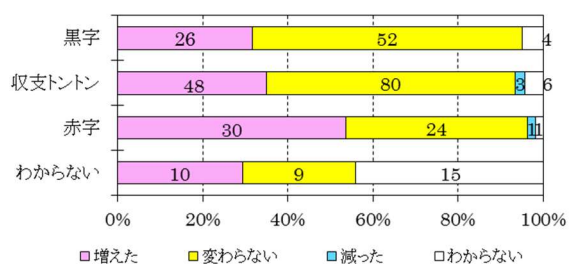
世帯収支別にみた非消費支出(税金)の増減

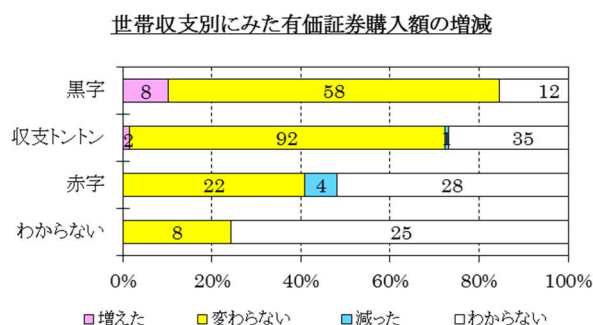
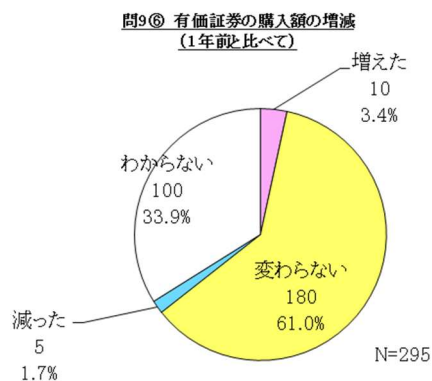
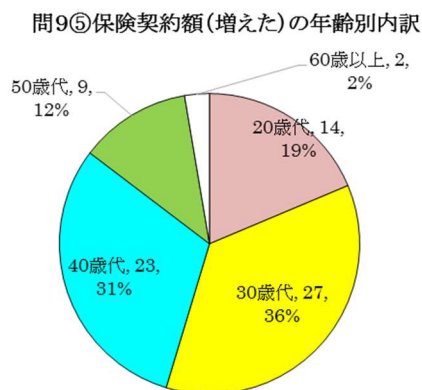
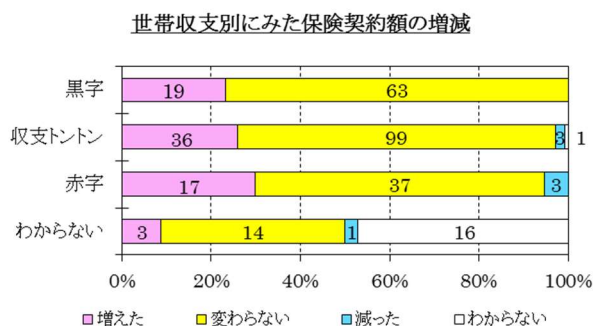
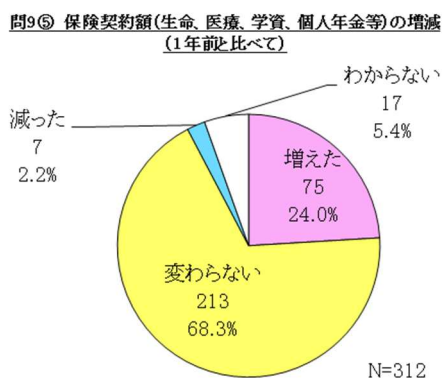
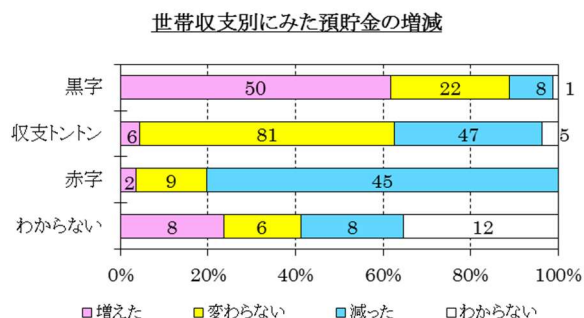
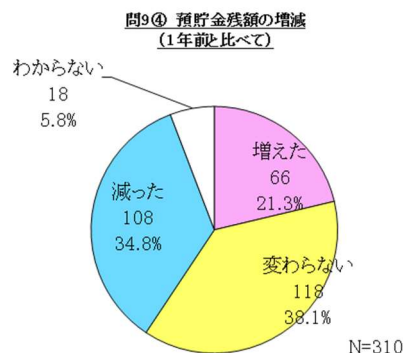


問9③ 非消費支出(社会保険料)の増減
(1年前と比べて)

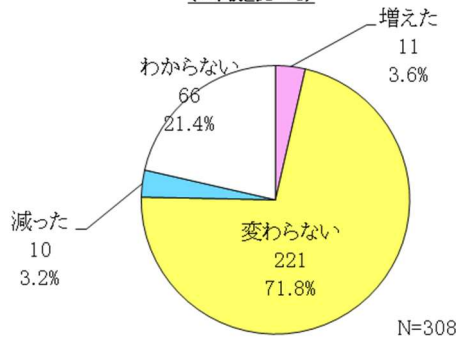


世帯収支別にみた非消費支出(社会保険料)の増減

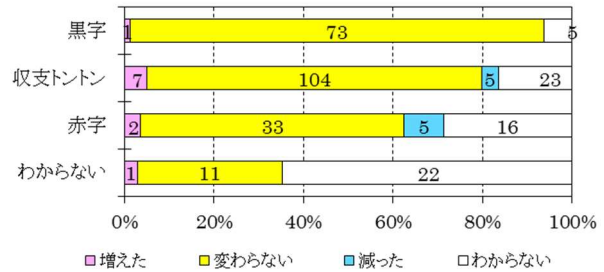




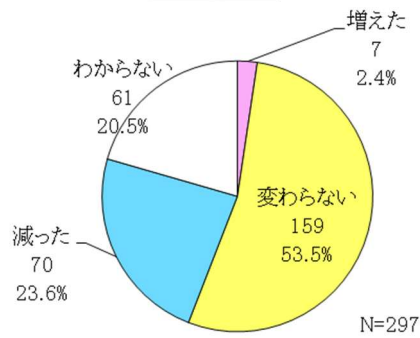
問9⑦ 土地・家屋等の不動産保有額の増減
(1年前と比べて)



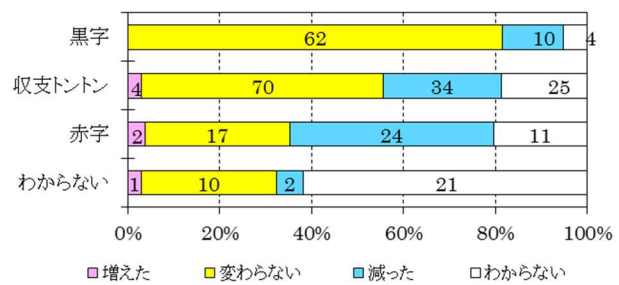
世帯収支別にみた不動産資産保有額の増減



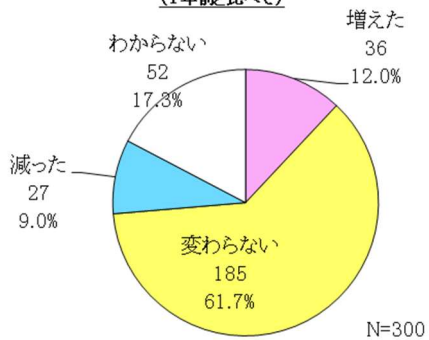
問9⑧ 土地・家屋等の不動産購入のための借入金の増減
(1年前と比べて)



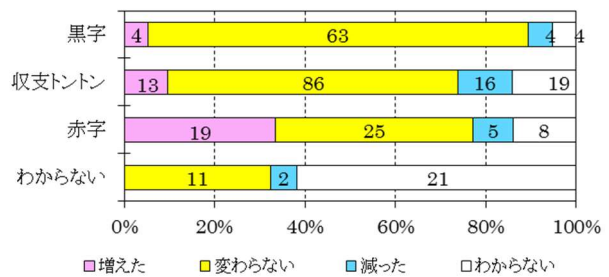
世帯収支別にみた不動産購入の借入金(残額)の増減



問9⑨ 自動車・教育等の不動産以外のための借入金の増減
(1年前と比べて)



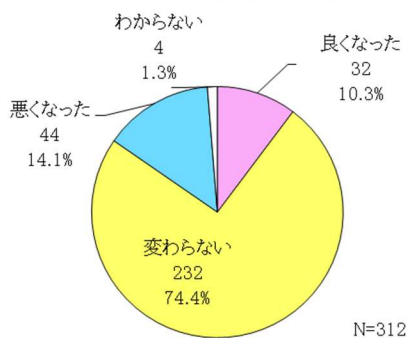
世帯収支別にみた不動産以外の借入金(残額)の増減



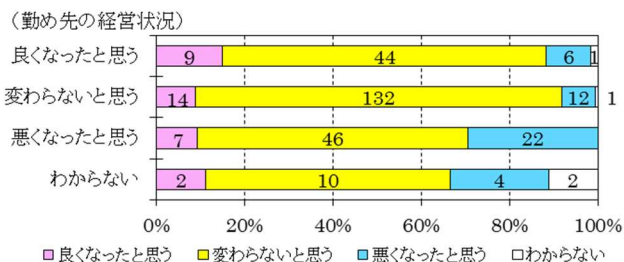
9. 世帯の暮らし向き

世帯の暮らし向きは、前回調査と比較して「良くなった」の割合が僅かに増加し、「悪くなった」の割合が減少した。その結果、世帯の暮らし向きDIは改善した（4.7ポイント上昇、マイナス値であるが、調査開始以来、最も高い値）。

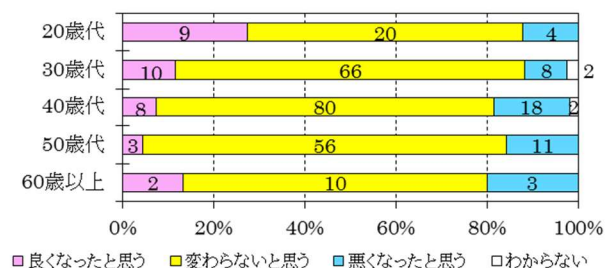
問10 世帯の暮らし向き(1年前と比べて)



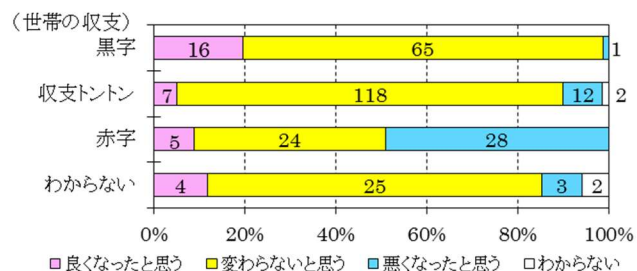
勤め先の経営状況別にみた世帯の暮らし向き(1年前と比べて)



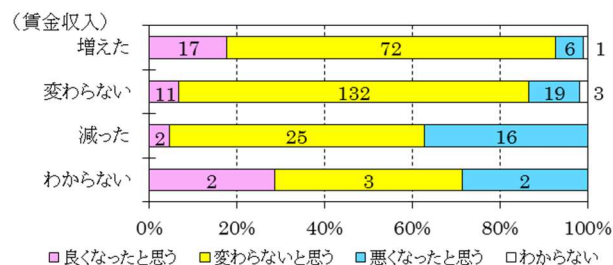
年齢別にみた世帯の暮らし向き(1年前と比べて)



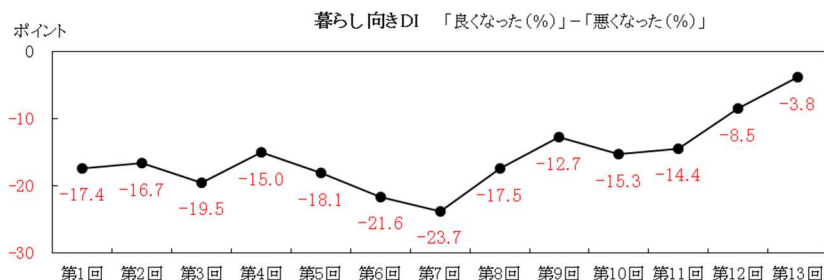
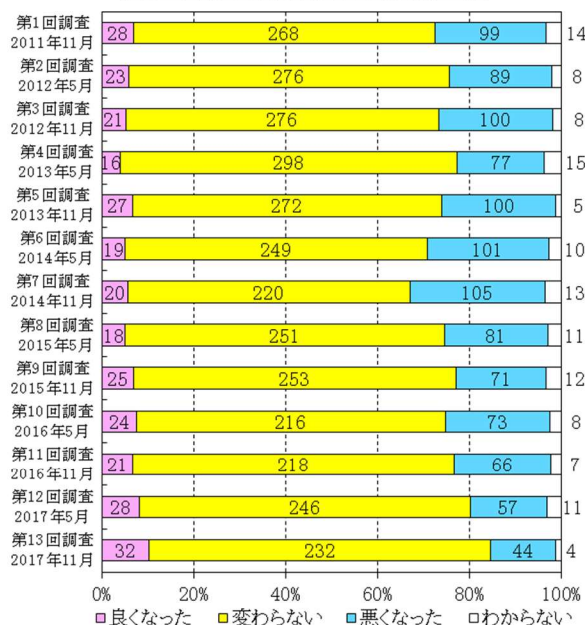
世帯の収支状況別にみた世帯の暮らし向き(1年前と比べて)



賃金収入の増減別にみた世帯の暮らし向き(1年前と比べて)



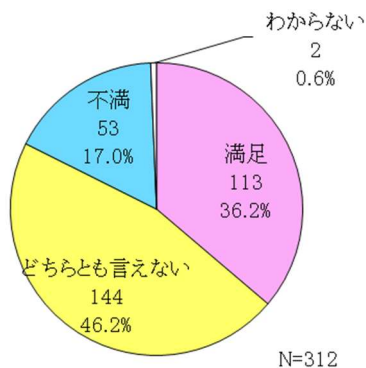
問10 世帯の暮らし向き(1年前と比べて)



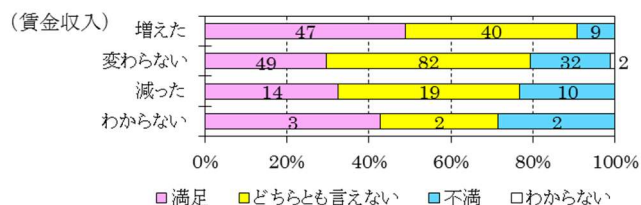
10. 生活の満足感

生活に満足感は、前回調査と比較して「満足」の割合が増え、「どちらともいえない」の割合が減少した。その結果、生活満足DIは上昇した（2.8ポイント上昇、調査開始以来、最も高い値）。これまでの調査結果と同様に「賃金収入の増減」「世帯収支」「仕事の満足感」「暮らし向き」「年収」との関連性が見られた。

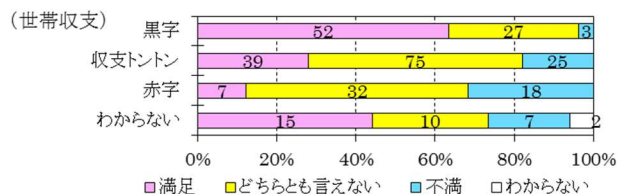
問11 生活の満足感



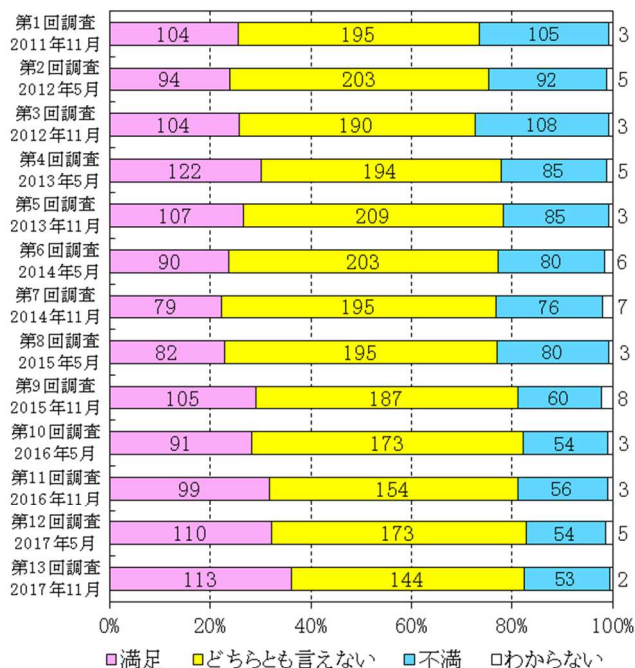
賃金収入の増減別にみた生活の満足感



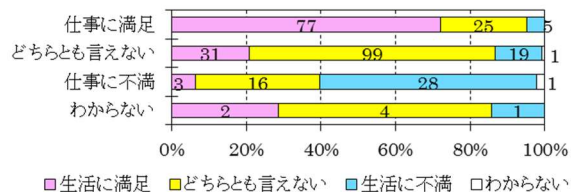
世帯収支別にみた生活の満足感



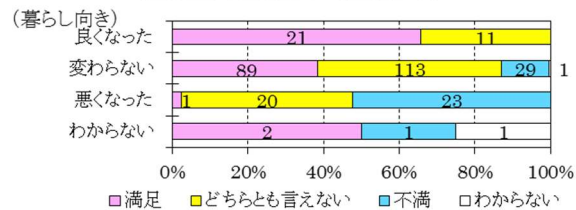
問11 生活の満足感



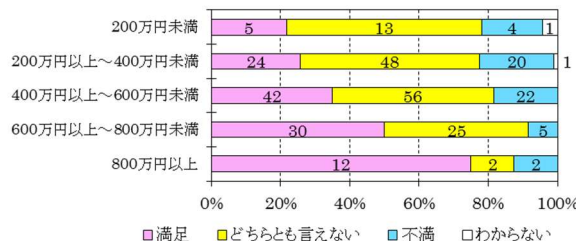
仕事の満足感と生活の満足感



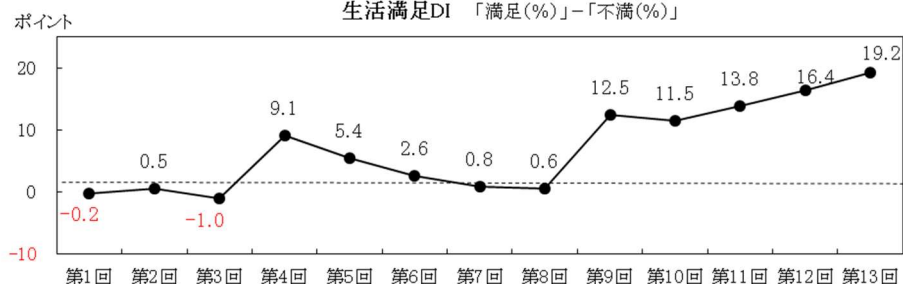
世帯の暮らし向きと生活の満足感



年収別にみた生活の満足感



生活満足DI 「満足(%)」-「不満(%)」



居住地別にみた生活の満足感

